

名古屋の話二つ

二の五日、らま、と名古屋へ行つた。

は盡り、こ。

そのとき、夜になつてオヤジが五十七
ぱりまわしてくれば知つた。ナコア
には廻りにやかあつたと同つた。

ます一泊二百円、一斗が大部屋。

次に、同じく五百円といつのが個室。
此から面白いところなんぞ——朝食つ

ミ子円——という。

二時、ドヤで、雇用の方に示しネオ
ンカフー、晝は千円出せば、二斗。
おの連携だつたそうだ。

おつせながら、だから、千円出せば、二斗
だけと、晝のドヤひ五百円、朝の

代が三百円か四百円のことはガラなんどか
ら、やうやく高いとはいえない気がした。

× × ×

釜ヶ崎——コース

6月 5 7月

○釜ヶ崎 口の入船温泉は改築中だが、
アロとアロのはや、こいる。空いてる
ヒキに入ったたら、やつぱり釜ヶ崎一番広
いようが感じた。

○釜ヶ崎 口の入船温泉は改築中だが、
このまま茶店が松と並びのイタメモノ
真向のめしや二軒、焼けたあとをすこせ
り口あした。めしやの大口相交めく下せ
ヨリガヘン、ヨウレニ。

○ 大阪市は社会福祉審議会

をひらいて、「愛隣地区」の福祉対策のす
すめ方を諭問した。また、あたらしい「
愛隣地区」福祉対策専門分科会を作つた。

二の二コースは七月一日の春新聞朝刊

そん子ドヤを眺めた直ぐ、オヤジがつれ
て、くれた店がある。ヤケ跡やミヤギだい
は屋台ふうの店で、同じようほやが五、六軒
直路りきに並んでいるさんじあたりだ。

オヤジのなじみといつて、アベラのオバ
さん曰、朝鮮万ヨリの強い日本語をしゃべる
ひとで国籍は韓国。このあたり京城へ行つて、
さだばかりだと向うへ話をしてくれた。

ひとで、少しこもまじ、こりだらけが、
まあ中の下じらりの暮しのようになり、Z.E.
坐てこなへて、向うにいろ姫とその夫の仕事

のこと、給料のこと、住居のことの人間が、
にが、少しこもまじ、こりだらけが、
まあ中の下じらりの暮しの日常E.I.を熱心に語つてし
ましは、現在の行政を不満せてくれ
たりう点で、とても印象に残つた。

それは、現行の行政を不満せてくれ
たりう点で、とても印象に残つた。
オバケニが、私はやばり二本二本やりん
だよ」とい、E.I.は時に、だ。

ヒ出たが、昨日新聞では「存続向い直し
もしヒリフ目出しが復活して、まるひ
愛隣地区」を、夕日新聞によると、この年内に科
会の委員は学者たちを招請、同盟の「エ
ライサン」だけで、当団員である釜ヶ崎
ニコモ、アニコヒ立しくて代弁できる看
も入、こいないうつだ。それで、いって血
の通つた、『総合施設』へ詰め新聞の見
出しことはいい筋なものだ。

○ 釜ヶ崎は夏からの新しい販賣方法と
しこ、ミニカーに小型車を出して、牛乳
ペニ、豆干、タオルなどを売りはじめた。
へ七月二〇日から。

前にモヤ、ミニヒゲが、その時
はフルマを使つてくつろいだ不便だ。
たのを、二人ともフルマで能率的にやる
といふ。ただし、車は中古でサタセシだ。

